

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473200283
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	樹林の風
訪問調査日	平成21年3月25日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473200283
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	樹林の風
所在地	241-0806 横浜市旭区下川井町218-2 (電話) 045-953-1010

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年3月31日

## 【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 9年 10月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.2 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1100 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は有名な秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つところに掲示するとともに、パンフレット、名詞にまで記載し、秀峰会の基本方針には「地域社会の福祉向上に貢献」を謳い、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。国道16号線バイパスの下川井インターに近い位置にあり、二俣川からのバスの良い、ご家族が訪問しやすい地理にある。たまたまは1ユニット1戸建てであり、こじんまりとしていて付近の住宅とみわけがつかず、違和感が全く無い。利用者さんに対しては介護ポリシーの「居心地の良い場所作り、雰囲気作り、笑顔作り」を実践している。秀峰会はさくら苑を初めとする大きなネットワークがある。入居希望者は居宅、デイ、他のグループホームなどのルートを通じてアプローチ出来る多機能性が大きな特徴となっている。秀峰会は先駆的にアニマルセラピーを介護に取り入れ、ここの樹林の風の愛玩犬「風子」は和みを与えてくれている。事業部制を導入し、事業部の方針展開を実施し、各グループホームは方針を展開して業務の改善に取り組んでいる。グループホーム同士は有機的に一元化し情報の共有化が図れている。医療連携体制では事業部独自の看護師を採用して推進すべく準備中である。グループホームで便秘解消等自然食による健康管理を狙って玄米食を採用し検討中であるが好転の兆しが見えて来ている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が昨年6月変更となり、従来、ケアマネジャーとして勤務していた方が管理者に昇格し、ケアマネジャーも兼ねて活動している。新管理者は着任以降、職員の研修、人材の育成に特に力をいれて取り組んだ。秀峰会は階層別の教育研修体制を持っており、節目節目で研修を受ける体制があるが、これに加えてグループホーム内で年に2~3回の独自研修を行いたいと考え実施した。今年度は管理者による個人情報保護法のレクチャー、ウィリングで研修を受けてきた職員による感染症に関する伝達講習を実施した。このようなグループホーム内研修を年に2~3回の実施を定着して行きたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の項目にの狙いとす真意について各グループホームのホーム長クラスでの検討会等で検討を行い、その意図するところを理解し業務に展開する活動を進めている。また、日頃の活動を改めて見直すツールとして役立っている、要改善点があれば、日々の申し送りや会議時に報告、指示出ししたり、懸案に掛け改善したり、している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は第1回目を平成19年7月に開催し、爾後2ヶ月に1回づつ、毎第3金曜日13:30~15:00と日時を決め定期的に開催している。ブロック会議も引き続き3ヶ月に1回づつ開催が継続されている。ホームの運営推進会議のメンバーは自治会代表として民生委員、川井地区社会福祉協議会副会長が各1名、ご家族、利用者本人、ホームから2名、それにオブザーバーとして地域ケアプラザの方が出席している。民生委員の方が協力的で且つ地域にかかわりの深い方で大変助けて頂いている。ケアプラザ、民生委員が中心であるので福祉に特化した情報交換が可能であり実のある討議が出来ている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は良く訪問してくれている。情報の伝達は来訪時に直接お伝えし、必要に応じて電話でもお伝えしている。年4回発行の法人の広報誌「秀峰通信」は必ずご家族にお届けしている。堅苦しい家族会の形式は取らず、ホームのイベント(夏のバーベキュー大会やクリスマス会など)の時に併せてご意見を伺うようにしている。金銭管理については毎月、月初に前月の支出明細を作成し郵送するか、面会時に報告しながらお渡ししている。職員の体制に変化がある時には、面会者にその都度お伝えをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>学校関係では高校から年1~2回程度ボランティア体験の学生さんが訪れる。さくら苑でのイベント等と一緒に、小学校、幼稚園の生徒と交流の機会がある。ボランティアではハーモニカ、書道、音楽療法、コーラス、カラーバードなどの方々が来てくれている。自治会では盆おどり、秋まつり、清掃活動などに参加している。運営推進会議で親しかった地域ケアプラザから利用者についてのお問い合わせや紹介を頂いている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での馴染みの関係を構築する事で、入居者の生活により良い幅が生じる為、日々の生活の中でその関わりを重視し、「連帯の輪を無限に広げていく」という法人の理念の実践に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	同法人(さくら苑)内で行なわれる朝礼に理念共有の為、日勤の代表者が参加。それを持ち帰り、朝の申し送り時に各スタッフに伝達している。法人本部より、理事長からの話をまとめ、水源の森たよりとしてグループウェアにて送られてきた物をファイリングとし、スタッフが常に確認出来る様になっている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入により、季節ごとの催し(盆踊り、秋祭り、敬老会、運動会等)や清掃活動に積極的に参加し、各入居者に地域の一員としての自覚をそれとなく促す事が出来る様コーディネートしている。近隣の方々もお誘いし、ご家族、ご利用者と共にバーキューは、毎年恒例の行事となっている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の活動を改めて見直すツールとして役立っている。要改善点があれば、日々の申し送りや会議時に報告、指示出ししたり、懸案に掛け改善したり、している。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回づつ、毎第3金曜日13:30~15:00と日時を決め定期的に開催している。ブロック会議も引き続き3ヶ月に1回づつ開催が継続されている。日々の活動状況を報告しながら、頂いたアドバイスや意見は真摯に受け取り日頃の業務に役立ったり、地域の催事等の情報を頂いた際には、積極的に参加するように取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の主催する連絡会にも積極的に参加をしている。他、区の養成しているボランティアさんの研修の受け入れを行なっている。連絡会や運営推進会議を通じて、今後も密接な関係を保って行く。		今後も継続して実施して行く。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	絶えず、面会時や電話連絡の際、健康状態含めた入居者の様子を付け加えお伝えしている。金銭管理については毎月、月初に前月の支出明細を作成し郵送するか、面会時に報告しながらお渡ししている。職員の体制に変化がある時には、面会者にその都度お伝えをしている。		今後も継続し、ご家族のご理解を得られるよう努めて行きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内に掲げている。不満や苦情があれば、速やかに対応すると共に何でも話せるような関係を保って行きたい。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限なものとなる様、事業部責任者(上司)や法人人事部と連携を図っている。		今後も離職を最小限に抑えるよう努力をしていく。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JT他各階層に合わせた法人内研修(新任研修、管理者研修他各種)を実施。他市社協等主催の外部研修にも参加している。引き続き、個々をみて、経験等に応じた内容の研修へ参加出来るよう配慮して行く。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会への参加や相互研修などで交流の機会を保っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設がどのような環境でどのような方が入居されているか、実際確認し触れて頂く事で安心感にも繋がる為、サービス利用開始までに家族と共に見学して頂く事をお勧めしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの習慣等考慮に入れ、利用者のペースで何か役割に通じる事等、生活の支えとなる事柄が出来る様、徐々に働き掛けを行ない、共に支え合う間柄となる様援助している。自ら体験を話して頂ける様コーディネートしたり、他のご利用者の方々と共感出来る話題へと広げ、スタッフがいのちの事柄等を学べるよき機会が生活のあらゆる場面で見受けられている。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の嗜好等踏まえ、本人の思いや意向が日々の生活の中で最大限取り入れる事が出来る様、配慮しコーディネートしている。これからも各職員がご本人の希望、要望の把握に努めそれらを全体で共有していく。		これからも各職員がご本人の希望、要望の把握に努めそれらを全体で共有していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人始め、家族や関係者から聞き取りを行ない、必要な場合にはアセスメント策定に家族・関係者に関わって頂き、より良い介護計画が出来る様努めている。スタッフ、1人1人が日々の生活の中での小さな変化や気付きなど月に一度の会議での議題提供とし、皆の統一を計っている。又、今後のケアへの介護計画へと常に繋げている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの介護計画の更新が原則であるが、期間内であっても利用者に状態の変化等が生じ、それまでの介護計画で対応出来ない事柄が出る場合、迅速に家族、本人等と話し合う機会を持ち、必要とされる援助が可能な様、随時介護計画の見直しを行なっている。又その際には各スタッフの意見も取り入れた物を作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人の他事業所(さくら苑等)の主催する行事等に利用者と共に出席するなど、日々の生活に奥行きを齎せる事が出来る様配慮している。法人内グループホーム同士の連帯や馴染みの関係作りを行っている、共にスキルアップを行える様、情報交換も同時に行っている		今後も継続して実施して行く。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、納得の得られた主治医と連携が取れる様努めながら、希望がある場合には、主治医となる事の出来る往診医を紹介している。主治医がそれまでの掛かり付けのドクターから施設往診ドクターに代わる場合には、利用者の状態把握の為、双方が連携出来る様、配慮したコーディネートを中心に心掛けている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとって相応しい環境が提供出来る様、主治医や家族と共に予め重度化が進んだ時に備えた対応を協議したり、万一退所に繋がる場合に備えた進路についての話し合いを個々の状態に即した時期に本人・家族・主治医と共に行なっている。今後ご本人にとって、より良い方向となるよう、各位と密な話し合いを行なっていきたい。		今後も継続して実施して行く。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や日々の申し送り時に利用者への対応の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。また、記録物の取り扱いについては慎重を期し、職務中でも職員以外が目につかない場所へ保管している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々にあった臨機応変な対応を心掛け、傾聴を心掛けながら、自己実現が図れる様な支援をしている。		利用者主体のケアの実践の為にも職員の研修に力を入れていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる各場面においても「出来る事」を重視したコーディネートを行ない、個々の潜在能力に応じた働き掛けを心掛けている。引き続き個々の嗜好をお聞きした献立を作るなど利用者の意向を最大限尊重して行きたい。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間による入浴は行っていない。個々のタイミングや希望を取り入れて気持ちよく入浴を楽しんで頂いている。今後も個々の習慣や好みに合わせた支援をして行く。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、個々の利用者の生活歴、潜在能力を鑑みて、場面場面でその方の役割に繋がる事や喜びに繋がる事を演出している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物他、町内のイベント、外食等に出掛ける支援を行うなど生活のメリハリが付く様演出している。今後もこれに積極的に取り組んで外出の楽しみを味わって頂ける様、支援して行きたい。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出探知の機器を玄関内外に設置し、夜間や緊急時以外、施錠をせず見守り重視の対応を行っている。今後も各職員と鍵を掛ける事についての弊害を認識し鍵を掛けないケアを推進していく。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと避難訓練を実施している他、近隣のお宅に災害時の協力を頂ける様、日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働き掛けを行い、了解を得ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れつつ、個々の利用者の状態に合わせた調理を行い、各人の摂取量を毎食ごとに記録を残し、申し送りを行っている。メニュー作成時には、法人内の(特養の)管理栄養士のアドバイスを取り入れている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、共用スペースに季節に応じた花や絵画、装飾物を生活感ある自然な形で飾って居心地良い環境への配慮を行っている。また、不快な音や光については、必要に応じて遮断している。この成果や5S1Uの進捗状況確認の為、法人本部推進担当者による施設巡回が定期的にあるなど、利用者にとって、居心地良い環境が提供出来る様、法人全体で取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々で馴染みのある家具類を各々持ち込まれているが、本人にとって居心地良く、安心・安全・快適な居室作りのお手伝い、演出を心掛けている。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

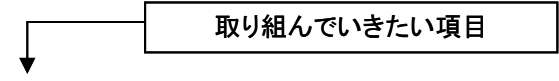
## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム樹林の風
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区下川井町218-2
記入者名 (管理者)	丸山 茂
記入日	平成21年3月14日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での馴染みの関係を構築する事で、入居者の生活により良い幅が生じる為、日々の生活の中でその関わりを重視し、「連帯の輪を無限に広げていく」という法人の理念の実践に努めている。		今後も継続していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	同法人(さくら苑)内で行なわれる朝礼に理念共有の為、日勤の代表者が参加。それを持ち帰り、朝の申し送り時に各スタッフに伝達している		法人本部より、理事長からの話をまとめ、水源の森たよりとしてグループウェアにて送られてきた物をファイリングとし、スタッフが常に確認出来る様になっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、民生委員の方々にお伝えし、地域の活動へお誘いを頂いている。(敬老の日の祝い・盆踊り・地域清掃への参加など)参加のち、ご家族にも来苑時お伝えしている。		今後も、出来る限り地域との関わりが保てる様、発信して行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時など、通りかかった近隣の方々と声を掛け合ったり、それによりご利用者の方々と顔見知りの関係も出来ている。また気軽に立ち寄って頂ける様な関係に努めている。		時にホームでの催しにお誘いしたり、逆に趣味事を披露して頂けるお宅があるなど、良好な関係に努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入により、季節ごとの催し(盆踊り、秋祭り、敬老会、運動会等)や清掃活動に積極的に参加し、各入居者に地域の一員としての自覚をそれとなく促す事が出来る様コーディネートしている。		近隣の方々もお誘いし、ご家族、ご利用者と共に行うバーキューは、毎年恒例の行事となっている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>毎週金曜日(第三、第五除く)の20時～、地域の方のために書道教室の場を提供している。</p>		<p>今後も地域役員の方や運営推進会議通じて、可能な範囲で地域に役立つ活動を検討していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>日頃の活動を改めて見直すツールとして役立てている、要改善点があれば、日々の申し送りや会議時に報告、指示出ししたり、懸案に掛け改善したり、している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>日々の活動状況を報告しながら、頂いたアドバイスや意見は真摯に受け取り日頃の業務に役立てたり、地域の催事等の情報を頂いた際には、積極的に参加するように取り組んでいる。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や区の主催する連絡会にも積極的に参加をしている。他、区の養成しているボランティアさんの研修の受け入れを行っている。</p>		<p>連絡会や運営推進会議通じて、今後も密接な関係を保っていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者以外の職員にも学んで頂く必要がある事は理解しているが、現在その制度を活用している入居者はいない事もあり、十分な機会を持っていない。</p>		<p>引き続き各職員への権利擁護に関する制度の周知と関係する研修、勉強会への参加を促していく予定。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>人の尊厳・権利に関わる重大なことである為、日々の申し送りや会議等で各職員に周知させている。</p>		<p>研修や勉強会に出て理解を深め、引き続き、意識の向上を図りたい。</p>
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の相談者に沿ったペースで説明を行い、行き違いが無い様努め、その都度理解を頂いている		入居時の契約や退所の際の解約時の説明に充分注意し、説明が足りない事が起因したクレームやトラブルはこれからも未然に防いでいきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、ご家族からの要望があれば、迅速な対応を心掛けて、各職員ともその内容の共有を図り、実現や改善に努めている。		今後も継続していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	絶えず、面会時や電話連絡の際、健康状態含めた入居者の様子を付け加えお伝えしている。金銭管理については毎月、月初に前月の支出明細を作成し郵送するか、面会時に報告しながらお渡ししている。職員の体制に変化がある時には、面会者にその都度お伝えをしている。		今後も継続し、ご家族のご理解を得られるよう努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内に掲げている。		不満や苦情があれば、速やかに対応すると共に何でも話せるような関係を保っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時他、月1回の定例会議でその機会を設け何かあれば改善に努めている。		秀峰会全体での、改善提案なども利用し、他事業所でも取り入れられる様な仕組みも利用している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の緊急時、急な要望等あれば、随時話し合い、勤務調整をしている。		今後も継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限なものとなる様、事業部責任者(上司)や法人人事部と連携を図っている。		今後も離職を最小限に抑えるよう努力をしていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>OJT他各階層に合わせた法人内研修(新任研修、管理者研修他各種)を実施。他社社協等主催の外部研修にも参加している。</p>		<p>引き続き、個々をみて、経験等に応じた内容の研修へ参加出来るよう配慮したい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連絡会への参加や相互研修などで交流の機会を保っている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃からストレスが溜まらない様に風通しの良い雰囲気を中心に掛け、コミュニケーションを密にとる様にしている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>半年に一度の人事考課時の個別面談の際には担当職務の評価を行うと共に個々に合わせた目標の設定を行っている。</p>		<p>今後も個々の職員が更なる意欲を持って働ける様サポートしていきたい。</p>

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の思い、困り事、ニーズ等、直接聞き取りながら、サービス利用上、不安な事があれば、解消出来る様、受け止め対応している</p>		<p>今後もご本人の要望をより把握出来る様に多面的な角度から捉えていきたい</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談初期の段階から利用に至るまでの来所時や電話連絡にあたる際には利用についての不安、ニーズ等見極めた上で具体的なアドバイスをこなっている</p>		<p>対応する各職員のアセスメント能力が均一なレベルとなる様、向上を図っていきたい</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談初期の段階で対象者や家族のニーズを見極め、たとえ利用に繋がらなくとも、その時必要としたサービスの紹介に努めている</p>		<p>上記に同じ</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設がどのような環境でどのような方が入居されているか、実際確認し触れて頂く事で安心感にも繋がる為、サービス利用開始までに家族と共に見学して頂く事をお勧めしている		お試しのショートステイを希望ある方あれば提供してみたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの習慣等考慮に入れ、利用者のペースで何か役割に通じる事等、生活の支えとなる事柄が出来る様、徐々に働き掛けを行ない、共に支え合う間柄となる様援助している		自ら体験を話して頂ける様コーディネートしたり、他のご利用者の方々と共感出来る話題へと広げ、スタッフがいいしえの事柄等を学べるよき機会が生活のあらゆる場面で見受けられている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活を支える為のヒントを家族に頂く事も多く、押しなべてどの家庭にも出来る範囲での協力も頂く事が多い。他、可能な場合には、日々の面会始め、受診の付き添いのお願いや、季節ごとの衣類の入れ替え、施設内の行事への出席等、お願いしている。		左記継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の利用者の想いを共有し、それぞれのご家族の事情も考慮した上でより良い関係や絆が保たれるようコーディネートしている。		左記継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培って来た個々の生活習慣を尊重し馴染みの場や家族以外に親交があった方も疎遠にならない様な機会を提供する様努め、働き掛けている		日頃の面会時他、クリスマス会、バーベキューなど、ご家族を通じてお招き頂くなどの機会がある。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格、関心事を見極めた上で、日々の生活上、何か協調して行なえる事があればそのコーディネートを行い、一体感や達成感に繋がる様援助している		今後も継続していく。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節ごとの催しに招待したり、何か以後の進路で困った事が有る様なら、いつでも相談に乗る事等お伝えしている		今後も継続していく。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の嗜好等踏まえ、本人の思いや意向が日々の生活の中で最大限取り入れる事が出来る様、配慮しコーディネートしている		これからも各職員がご本人の希望、要望の把握に努めそれらを全体で共有していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の方のバックグラウンドの把握に努め、利用に至るまでの生活を浮き彫りにしてサービス利用にその情報を役立てている		今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	予め入居前の状況を把握した上で入居後はその情報を参考にしている。日々のその状態を申し送りにて周知しながら現状はどうか、確認、把握に努めている。		今後も継続していく。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人始め、家族や関係者から聞き取りを行ない、必要な場合にはアセスメント策定に家族・関係者に関わって頂き、より良い介護計画が出来る様努めている		スタッフ、1人1人が日々の生活の中での小さな変化や気付きなど月に一度の会議での議題提供とし、皆の統一を計っている。又、今後のケアへの介護計画へと常に繋げている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの介護計画の更新が原則であるが、期間内であっても利用者に状態の変化等が生じ、それまでの介護計画で対応出来ない事柄が出る場合、迅速に家族、本人等と話し合う機会を持ち、必要とされる援助が可能な様、随時介護計画の見直しを行なっている。又その際には各スタッフの意見も取り入れた物を作成している		今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々のケアの内容、結果、工夫等記録し、職員全員が共有出来る様にしていて、申し送り時や介護計画策定時に反映させている。		特記事項があれば個別に専用のノートを用いて、(大きく変化や問題があった時など)、スタッフ全体で把握出来る様、記載し活用している。入居後1ヶ月の期間は別様式のシートを使用し、きめ細やかな観察に努めている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人の他事業所の主催する行事等に利用者と共に出席するなど、日々の生活に奥行きを齎せる事が出来る様配慮している		法人内グループホーム同士の連帯や馴染みの関係作りを行っている、共にスキルアップを行える様、情報交換も同時に行っている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々の定期的訪問や消防訓練など、年間行事となっている。また、民生委員の方を通じ、地域交流の場への参加も多い。		今後も継続していく。消防署の協力の下、救急対応の講習(心肺蘇生法)を次年度に行いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、他のサービスとの直接的な結び付きはないが、ニーズによっては、法人内外のケアマネジャーに気安く相談出来る関係を保っている。		今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、他のサービスの利用は無いが、必要に応じて、その利用についての相談や話し合いの場が持てる関係を確保している		今後も継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、納得の得られた主治医と連携が取れる様努めながら、希望がある場合には、主治医となる事の出来る往診医を紹介している		主治医がそれまでの掛かり付けのドクターから施設往診ドクターに代わる場合には、利用者の状態把握の為、双方が連携出来る様、配慮したコーディネートを中心している
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々の利用者・家族から希望があれば施設へ訪問診療して貰える神経内科を専門とした主治医を紹介している。認知症の進行具合に応じて必要時にはそのドクターから紹介状を貰い外部の専門医療機関(精神科)での診察が可能な体制となっている。掛かり付けの医者が異なる場合、専門医での検査、診察が望ましいと思われる時には受診が可能な様、家族に病院の紹介含めお勧めする事がある		左記の継続。他、個々の利用者の医療の内容やそれにより起こり得る事柄を把握する為、何か疑問がある時には診察の際や電話連絡等でその都度ドクターや看護師に確認し解消している
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診担当看護師に日頃の個々の利用者の状態を把握して貰いながら、体調変化がある時には、ドクターの指示のもと、昼夜迅速な指示、対応を貰うなど、きめの細かい支援が出来る。		今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の経過、状態把握の為、早期退院可能かどうか確認する為、病院を訪問し必要な情報交換を病院関係者(看護師、担当医、ソーシャルワーカー等)と行なっている。他退院時の病院関係者と家族、本人とのムンテラに可能な場合には同席し、退院後の進路を関係者と共に検討している。		今後も掛かりつけ医を中心とした連携のもと近隣の病院とも良好な関係をキープしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとって相応しい環境が提供出来る様、主治医や家族と共に予め重度化が進んだ時に備えた対応を協議したり、万一退所に繋がる場合に備えた進路についての話し合いを個々の状態に即した時期に本人・家族・主治医と共に行なっている		今後もご本人にとって、より良い方向となるよう、各位と密な話し合いを行なっていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の重度化に備えて何処まで対応可能か、対応出来ないことは何か見極めた上で主治医から介護上のアドバイスを貰ったり、どの様に過ごす事が本人や家族にとって最善なのか各職員と共に情報を共有し共に模索する姿勢で対応している。他必要時には、他の社会資源の照会作業を行なうなど努めている。		今後も継続していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最終的に他箇所への住み替えとなる場合、複数の社会資源の情報を法人内外から集めて、より相応しく、本人・家族が納得される環境へ移転可能な様に紹介している		住み替えによるダメージが及ばない様、またその人らしさが保てるよう今後も援助していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	会議の目的の中で、送り出し利用者の対応の中で、		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や日々の申し送り時に利用者の対心の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。また、記録物の取り扱いについては慎重を期し、職務中でも職員以外が目につかない場所へ保管している		今後も継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の難しい方でも、個々の状態に応じて、表出出来る様な働き掛けを行ない、それが最大限可能な様に努めている。		今後も利用者の思いを尊重し、画一的な説明や対応にならない様、各職員とスキルを磨いていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々にあった臨機応変な対応を心掛け、傾聴を心掛けながら、自己実現が図れる様な支援をしている。		利用者主体のケアの実践の為に職員研修に力を入れていきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の意向を尊敬した支援を心掛けている。馴染みの店がある方には、家族に付き添いを依頼するなど対応し、それ以外の方には、施設に有償ボランティアを定期的に招き、散髪(パーマ含む)が出来る機会を設けている		日々の買い物等で希望あれば本人に同行して頂き、美容用品や洋服等見て選んで頂いた上で購入している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる各場面においても「出来る事」を重視したコーディネートを行ない、個々の潜在能力に応じた働き掛けを心掛けている。		引き続き個々の嗜好をお聞きした献立を作るなど利用者の意向を最大限尊重していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上制限がある場合を除いて、個々の方の嗜好物を禁止せずにおやつや食事時などに取り入れて、楽しんで頂いている		日々の買い物に同行して頂き、自己決定し選択する楽しみも味わって頂いている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が何処に有りそうか、検討を行なっている。極力トイレで用を足せる様、各人のインターバルを見ながら、お声を掛けてトイレに誘導し、その情報の共有に努めている。		お声掛け時、誘導時等、個人の尊厳を傷付けないよう配慮に努めている。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間による入浴は行っていない。個々のタイミングや希望を取り入れて気持ちよく入浴を楽しんで頂いている。		今後も個々の習慣や好みに合わせた支援をしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々、個々の方の習慣や日中の活動状況を踏まえながら、快適な睡眠や休息が取れる様、支援している。		今後も継続していく。

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、個々の利用者の生活歴、潜在能力を鑑みて、場面場面でその方の役割に繋がる事や喜びに繋がる事を演出している		今後も左記のため継続に務め、個々にとって活力ある日々をもたらしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を勘案し、自己保管して貰ったり、買い物や外出時など携えて頂いて自らがお金を持つたり、使う楽しみを味わえる様、配慮している。		これからも本人がお金を持つ事の大切さを各職員と共有していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物他、町内のイベント、外食等に出掛ける支援を行うなど生活のメリハリが付く様演出している		今後も左記に積極的に取り組んで外出の楽しみを味わって頂ける様、支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとり行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの催し兼ねた外出に利用者だけでなく家族もお招きして出掛けたり、個別にショッピングに出るなどの援助を行っている。(中には定期的に家族と温泉旅行に行かれる方も居る。)		今後も利用者が自己実現が図れる様、臨機応変なコーディネートをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などに本人自ら電話したり、手紙や葉書のやり取りが出来る様、コーディネートしている。		左記により、それまで培われて来た繋がりを絶やさないう留意している
----	--	--	--	----------------------------------

	○家族や馴染みの人の訪問支援	面会時間の制限は設けていない。家族や知人の面会時には本人の居室で寛がれたり、フロアで他の利用者と共に		
--	----------------	--	--	--

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	は本人の居心地見かけたり、フロアで他の利用者と共に お茶を取られたりするが、めいめいの意向や様子見ながら、 心地良い雰囲気作りを心掛けている。時に面会に来た利用者 者家族が、アクティビティに参加したり、逆に他利用者の能力 に応じたアクティビティを企画して下さったりする時もある。		今後も利用者はもとより、集う方々にとって、馴染みのある 空間となるよう配慮に努めたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	日々、見守りや必要に応じての巡回を徹底し、一丸となって 身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		今後も定期的に左記についての講習会へ出席するなどし て、引き続き全職員に周知していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	無断外出探知の機器を玄関内外に設置し、夜間や緊急時 以外、施錠をせず見守り重視の対応を行っている。		今後も各職員と鍵を掛ける事についての弊害を認識し鍵 を掛けないケアを推進していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	絶えず付かず離れずでは無く、状況場面によって心地良い 距離感を保つ時があるが、その様な時でも、各職員との声の 掛け合いを忘れずに行い事故やトラブルが無い様、目が行 き届くよう注意している。(夜間帯は必要時には随時、定時以 外の巡回をマメに行い対応している)		見守りを重視したケアを心掛け、本人の意向に沿った対応 を心掛けている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	包丁、鋏等の使用は全て職員任せにするのでは無く、本人 が利用する際には必要な場合には見守りを行うなどして安 全に配慮している。		基本、危険に繋がる様な物は使用時以外は、目に付かな い所で保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じ た事故防止に取り組んでいる	利用者の生活の中で環境面や安全面から障壁となる様な環 境が無いのか？、人為的なミスが出ないのか？等見直しを図っ ている。		今後も個々の利用者の状態把握に努めながら、各種の事 故防止に努めていく。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行っている	必要時には迅速に状況に照らした救急対応等のマニュアル の改訂を行い、各職員に周知徹底を図りつつ会議時などに 定期的にシミュレーションを行っている。		各職員が定期的に研修が受けれる機会を提供してく。
	○災害対策	消防署の指導のもと災害時の避難誘導を確保している他近		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の指導のもと災害時の避難路を確保している他近隣のお宅に災害時の協力を頂ける様、日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働き掛けを行い、了解を得ている。		今後も継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクマネジメント上からも予め起こり得るリスクを事前に家族にお伝えし了解を頂くと共に、よりその人らしい生活が成立出来るよう、問題解決に向けた対応策を共に築き合う努力を行っている。		医療的内容が伴う場合には、主治医含めた話し合いを行っている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各々の利用者の日常の観察から、少しでも様子が変化した場合の気づきや対応法について、迅速な対応が可能な様、随時スタッフ間で共有している。		他、訪問医の診察時に備えて、個々の利用者の健康状態の変化がある時には、個人記録以外にも個別にまとめて、その変化が誰が見ても、手を取る様に分かる様、記録している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリング、整備しその内容について全員で共有している。		左記の他、投薬の変更がある場合等、申し送りで伝達する他、申し送りノートにも記載を行い、漏れが無い様、心掛けています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	投薬だけに頼らず、植物繊維を取り入れたメニューを心がけたり、日々のアクティビティーに体操を取り入れたり適度な運動が行なえるよう支援している。		主治医の指示仰ぎながら、下剤の利用は必要最低限に留めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科による指導のもと、個々の状態に合った口腔ケアが確実に出来る様、声掛け、見守りを毎食後に行っている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れつつ、個々の利用者の状態に合わせた調理を行い、各人の摂取量を毎食ごとに記録を残し、申し送りを行っている		メニュー作成時には、法人内の(特養の)管理栄養士のアドバイスを取り入れている
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時に感染症の項目が入った診断書を提出してもらっている。また各種感染症に関するマニュアルがあり、日頃から予防含めた対策を行っている。(日々、手洗いや嗽等含め励行している)		感染症についての勉強会をこれからも継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、布巾等の消毒を確実に行ないつつ、生ものの扱いには十分注意するなど対応している。		今後も衛生管理に注意を払うと共に講習会にも定期的に参加したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者と共に季節に応じて植物の植え替えや手入れを行っている。来訪者や近隣の方々にとっても憩いが感じられるような配慮、工夫をしている。		今後も継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、共用スペースに季節に応じた花や絵画、装飾物を生活感ある自然な形で飾って居心地良い環境への配慮を行っている。また、不快な音や光については、必要に応じて遮断している。		左記の成果や5S1Uの進捗状況確認の為、法人本部推進担当者による施設巡回が定期的にあるなど、利用者にとって、居心地良い環境が提供出来る様、法人全体で取り組んでいる
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブル等の配置に気を付け、皆で気軽に語らったり、且つ心理的なプライバシーが確保出来る様な環境に配慮している。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々で馴染みのある家具類を各々持ち込まれているが、本人にとって居心地良く、安心・安全・快適な居室作りのお手伝い、演出を心掛けている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>適時、利用者の状況を見ながら、換気や居室・共同スペースの温度管理につとめている。</p>		<p>外気温と大きな隔たりがない様に注意し、マメな対応を心掛けていく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、風呂場は勿論、共同スペースに手摺を設置するなど安全の確保に努め、個々の自立に繋がる様、活用している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者個々の能力をみて、必要な時には利用者了解のもと、居室入り口にさり気無いネームプレートを掛けたり、個々の嗜好に合う見やすいカレンダーを利用して頂いたり、必要な範囲でのコーディネートをしている。</p>		<p>今後もちよつとした工夫により、利用者の分かる力を引き出したい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>各々の居室から建物外周に植えられた草・花を眺める事が出来たり、外周を周る事が出来る為、散歩がてら観賞する方もいる。</p>		<p>今後も環境面の有効活用につとめていきたい。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)